

事務事業評価表 平成25年度

政策 明日につながる産業の振興  
 施策 都市型農業の推進  
 基本事業 生産性の高い農業経営の確立

事業名 **酪農経営安定技術高度化支援事業**

[0997]

部名	経済部	事業開始年度	平成24年度	実施計画事業認定	対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内酪農家</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>生産性の向上と就業環境の整備が図られ、持続可能で安定した酪農経営ができる。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>乳質検査に係る経費の一部に対して助成を行う                      江別市ホルスタインシヨウに係る経費の一部に対して助成を行う                      酪農ヘルパー人件費の一部に対して助成を行う</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	酪農家戸数	戸	57	62	53	54
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	850	1,200	431	1,200
活動指標2	検査牛延べ頭数	頭	15,932	16,560	15,866	16,560
成果指標1	酪農家 1戸当たり乳量	t			467.4	439.6
成果指標2	酪農ヘルパー利用延べ回数	回			582.5	576
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	0	431	1,200
正職員人件費 (B)		千円	0	0	5,611	5,639
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		千円	0	0	6,042	6,839

費用内訳	
24年度	負担金 補助及び交付金 431千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	本事業は、酪農家の経営安定と技術の高度化を図るといふ共通の目的をもった3つの事業（乳質改善促進事業・産学官連携畜産技術高度化促進事業・酪農ヘルパー支援事業）を統合したものである。	事業を取り巻く環境変化	継続的な酪農振興と経営の安定化を図るためには、生乳検査による乳質の改善が必要であり、優秀な乳牛の優劣を競うことで飼養管理技術の情報交換による生産性の向上が図られている。また、家畜飼養の特殊性から農休日の確保が困難であり、担い手が定着しにくい状況となっていることから、酪農ヘルパー事業を積極的に支援することによる酪農業後継者の育成・確保に適した環境の整備が必要となっている。
--------	---	-------------	--

## 24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
 妥当である  
 妥当性が低い

理由・  
 根拠は？

市内酪農家を対象とした事業であり、生乳の生産性向上や乳牛の改良、農休日の確保等、酪農経営の安定化に寄与することから妥当です。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
 貢献度ふつう  
 貢献度小さい  
 基礎的事務事業

理由・  
 根拠は？

食の安心・安全が求められる中で、消費者の信頼の向上や、生産性向上による酪農経営の安定化につながります。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている  
 どちらかといえばあがっている  
 あがらない

理由・  
 根拠は？

乳質検査により個々の乳牛の健康状態まで把握でき、ホルスタインシヨウでは年々参加者も増えており、活発な飼養管理技術の情報交換の場となっている。その結果、牛群体型審査によりエクセレント牛を輩出しており、これらの成果の継続には酪農ヘルパー事業を積極的に支援することによる酪農業後継者の育成・確保に適した環境の整備が必要であるため。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
 成果向上余地 中  
 成果向上余地 小・なし

理由・  
 根拠は？

乳質改善の対象である乳牛は生き物であり、その時々々の状態によっても数値的な変動が生じる。成果を向上させるには、牛や牛舎環境等を常に良い状態に維持することであり、現状では各酪農家の意識高揚的な部分によるところが大きい。また高齢化や担い手不足の影響を受け、農家戸数が減少する中において、江別共進会への参加戸数・出陳頭数を維持しており、石狩管内や、全道大会で入賞を果たしているなど、江別の優良牛の育成は高いレベルにまで達成されている。以上のことより成果向上の余地は小さいと考える。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある  
 ない

理由・  
 根拠は？

補助金の削減により酪農経営は不安定になり、酪農後継者の育成・確保も難しくなる。またホルスタインシヨウは協賛企業が減少しており、補助金を削減することによりイベントの開催自体が困難になるため。